

宿題はおまかせ！ 天才ロボット君

夏休みは、海だ！キャンプだ！花火だ！と大忙しの子どもたち。当然、宿題は後回しで、机の上に山積みです。「ああ、天才ロボットでもいれば、宿題なんかすぐ終わるのになあ」思わずため息をつくお兄ちゃん。

それを聞きつけたパパさんは、「よし、僕が作ってあげよう」と牛乳パックを取り出し、天才ロボットとやらを作り始めました。

そして、宿題を書き写すと、「さあ、この漢字はなんて読む？」と問題を出し始めました。「???」お兄ちゃんが頭をひねっていると、「じゃあ、天才ロボット君に聞いてみよう」とパパさん。その問題をロボットの口に入れたところ、ナント、ロボットの足元から答えの紙が出てきたのです。「すご〜い」お口をあんぐり開けたお兄ちゃん。パパは調子づいて、「次は算数だ！」。問題を口に入れたら、また、ちゃんと答えがでてきました。ホント、不思議です。

パパにタネあかしをしてもらい、「な〜んだ」と思ったものの、ちょっとおもしろくなって問題を作っていたら、あっという間に宿題が終わってしまいました。さすがは天才ロボット君。お兄ちゃんは友だちに紹介したくなり、夏休みの自由研究として、学校にもって行くことに！

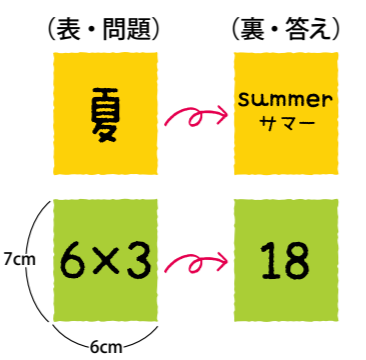
きっと、みんなもびっくりするでしょう。



カードの問題を読み、ロボットに答えを尋ねます。そして、裏の答えが見えないように、ロボットの口にカードを入れると、答えが下から出てきます！



4 色画用紙で問題カードを作る。

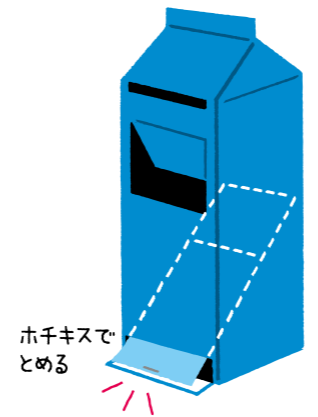


3 自由に飾り付けて、ロボットらしく仕上げる。

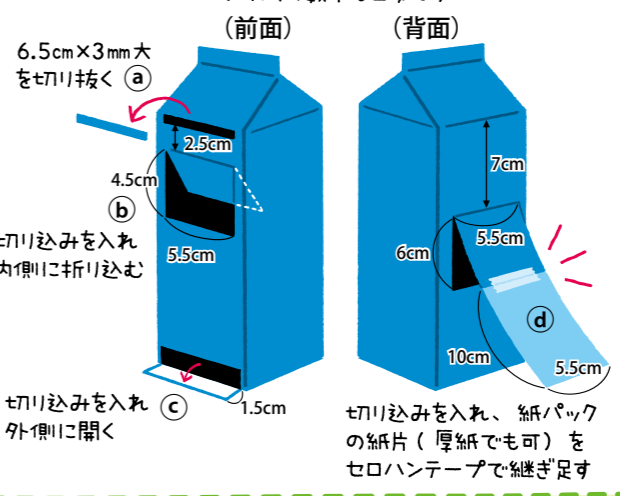
①と②の穴はふさがらないように色画用紙も切り取る

紙パックの底を利用して作ったカード入れ付き

2 背面の④部分を内側に差し込み、前面の③まで引き出す。



1 紙パックの前面・背面を図のように切る。



●準備するもの●
牛乳やジュースの紙パック(1ℓサイズ)・紙パックの紙片(10×5.5cm)・カッターナイフ・はさみ・セロハンテープ・ホチキス・厚めの色画用紙・サインペン・ロボットの飾り(モール、リボン、紙コップなど)

〈作り方〉

●木村研(きむらけん) / 手作りおもちゃ研究者として、おもちゃの講演や講師、創作おもちゃ本の執筆などで活動中。児童文学作家でもあり、『999 ひきのきょうだい』(ひさかたチャイルド)などの著書多数あり。

イラスト・市川彰子